

令和8年度 自己点検・自己評価報告書（令和7年度評価）

【日時・場所】 令和8年4月15日（水）沼津情報・ビジネス専門学校

議 事

1. 沼津情報・ビジネス専門学校

Mission - 使 命 - 人の力とデジタルで地域を未来につなぐ

Vision - あるべき姿 - 次代の求める職業教育の場として欠かせない存在であり続ける

Value - 行 動 指 針 - あらゆるステークホルダーに職業教育を通して真摯に向き合う

教育方針「人と技術の共生する時代に、人として働き抜くための学びを」

- 知識を身につけ根拠を持って判断し、行動できる社会人へ
- 成功の法則=Direction（方向）×Passion（情熱）×Time（時間）
- 今この時、その一瞬を大切に

2. 評価項目の達成及び取組状況 の確認

評価方法： 4（適切）→ 3（ほぼ適切）→ 2（やや不適切）→ 1（不適切）

※自己評価の平均は、小数点第2位を四捨五入する。平均値3.5未満は赤で表示。

（1）教育理念・目標

評価欄

1-1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか	3.9
1-2	学校における職業教育の特色が明確に示されているか	3.9
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.7
1-4	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3.6
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.9
学校自己評価 平均		3.8

成果と課題

1-1:教育理念並びに教育目標は、ホームページや学生便覧に記載されており、入学時のオリエンテーションでも入学生に周知されている。またオープンキャンパス等でも説明をしている。

1-2:教育の特色について学校案内パンフレットやホームページに明記しており周知している。

1-3:教育課程編成委員会をはじめ企業、業界関係者の方々の意見や業界動向、ニーズを踏まえたカリキュラムを構成している。

1-4:学校案内パンフレットやホームページへの記載、オープンキャンパス・学校説明会等で説明を行っているが、周知の機会が限られている。また、記憶に残る形での周知には難しさを感じる。

1-5:教育課程編成委員会、専門職の講師、企業の方々からの情報を授業に組み込んでいる。

今後の改善方策

・本校のミッション等をオープンキャンパスや説明会などでも継続して伝えていく。

(2) 教育活動

評価欄

2-1	シラバスが作成され学生に配布されているか	3.5
2-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.8
2-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.5
2-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3.6
2-5	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3.6
2-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.7
2-7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3.7
2-8	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.8
2-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.2
2-10	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3.4
2-11	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3.7
2-12	目標に到達しない学生に対し適切なフォローがなされているか	3.2

学校自己評価 平均

3.6

成果と課題

2-1:シラバスについて、各科目の初回授業時に配布もしくは共有ファイルとして閲覧できるようにしているが、周知方法等について、学科、科目でのばらつきがみられる。

2-2:各学年の教育レベルは学生便覧に記載されており、目標レベルに対応する学習時間を設定している。

2-3:ディプロマポリシーを設定し、各科目の関連性、学習順序、検定試験の受験時期等を考慮した上でのカリキュラムの構成、授業の展開を行っている。また、カリキュラム作成にあたり、ロードマップの作成も行っている。ただし、科目間の連携について担当教員講師とのさらなる共有の必要性を感じる。

2-4:キャリア教育は重要視されており、就職を強く意識したカリキュラムになっている。実践的な授業が就職後に繋がるよう、企業連携授業に現場で利用する技術を盛り込むようにしている。また、指導内容が身に付いていない場合は、授業だけでなく日常的に指導をしている。

2-5:インターンシップがカリキュラムに組み込まれている学科もあるが、企業連携授業も含め、実践的な教育を実施している。

2-6:半期ごとに授業アンケートを行い、各科目に対する授業評価がなされている。結果は共有し、授業内容の改善や指導方法の見直しに反映している。

2-7:各科目での評価方法をシラバスに示し、それらに基づいた成績評価を行っている。

2-8:分野に関連性のある必要な知識として資格を選んでおり、取得におけるカリキュラムの体系立てはできている。資格試験の結果に対する検証及び対策については更に強化が必要である。

2-9:専門分野によっては常勤、非常勤のバランスを考えたとき人材不足もあるが、法令上の基準は

<p>満たしている。教員の高齢化に伴う計画的な世代交代が必要である。</p> <p>2-10：知識・技術の向上を目的に外部研修やUdemyなどを活用している。</p> <p>2-11：教育課程編成委員会、企業連携授業等を通じて定期的な見直しの機会が設けられている。</p> <p>2-12：個別面談や学習フォローを継続して行っている。理解が不十分な科目や実技面で課題のある学生は、授業後の補助指導や課題の再確認、学習方法の助言などを実施、改善に繋げている。また、生活面への不安が学習に影響する場合には、状況を聞き取ったうえでサポートを行い、家庭連絡をし、家庭との連携を強化、安心して学習に取り組める環境づくりに努めている。</p>
<p><u>今後の改善方策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスは授業前に印刷配布もしくはデータ配布で最初の授業で説明するよう改めて統一する。 ・教育力向上のために、教員の採用は引き続き行っていく。 ・ブラッシュアップ研修の手法について見直しを行う。 ・学科（学校）全体でのサポート意識を持つ。必要に応じて講師へのサポート依頼を行う。

(3) 教育成果

評価欄

3-1	就職率の向上が図られているか	3.5
3-2	資格取得率の向上が図られているか	3.2
3-3	退学率の低減が図られているか	3.2
3-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.2
学校自己評価 平均		3.3

成果と課題

- 3-1:就職支援課との協力体制ができており、学生の適性や希望に応じた支援を実施している。また、就職年次生との定期的な面談を実施。必要に応じて家族への状況説明を行っている。
- 3-2:資格試験に向けた指導体制の整備や学習環境の改善を進め、取得率の向上に継続して取り組んでいる。座学と過去問題の演習などの体系的な授業と、オンデマンド教材を使った繰り返しの学習、統計から間違いの多い傾向の対策などを行っている。一方で、資格取得への真剣な気持ちやモチベーション維持についてはまだまだ働きかける余地がある。
- 3-3:1年生を中心に学習意欲低下または退学の兆候が見える学生に対して、早めの保護者面談やカウンセリングへの接続を行っている。進路変更、学習意欲の低下については、オープンキャンパス等の機会に学習内容と進路について理解してもらえるよう一層の努力が必要。
- 3-4:就職担当職員からの情報や、就職先企業の方と直接話ができる際に確認。また卒業生自身と会う機会もあるため、本人だけでなく同窓生の情報も聞くなど、把握に努めている。

今後の改善方策

- ・改善により取得率が上がった資格もあるが、取得率が下がっている資格については、継続して指導方法等の見直しを行う。
- ・学生情報の共有と早期面談等スピード感をもって取り組む。
- ・卒業生や企業様、同窓会との協力で卒業生の状況を把握する仕組みづくりを進めていく。また、卒業生との接触の機会を作る。

(4) 学生支援

評価欄

4-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.6
4-2	学生相談に関する体制は整備されているか	3.5
4-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3.6
4-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.6
4-5	保護者と適切に連携しているか	3.5
4-6	卒業生への支援体制はあるか	3.5
4-7	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3.6
4-8	新たな求人開拓の努力はしているか	3.7
4-9	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3.4
4-10	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3.6
学校自己評価 平均		3.6

成果と課題

4-1:就職担当の専属スタッフを置き、クラス担当と協力のもと就職の支援を行っている。就職担当職員が就職相談室から職員室に席が移動し環境が整備された。また求人情報の提供方法等も整備されている。

4-2:カウンセリング体制を常設しており、担当教員以外にも相談できる体制となっている。また、教員側から積極的に声をかけるなど、話を聞く機会を多くしている。

4-3:経済面の相談、定期的な奨学金の案内の他、特待生制度等も整備され支援体制は整っている。また、延納・分納での納入制度やオリコ学費サポートプランの貸付制度もあり利用者もいる。

4-4:年一度の健康診断を実施している。保健室を整備し、必要に応じて使用することができる。

4-5:学業や欠席状況を規定と照らし合わせ、必要に応じて適切に家庭連絡を行っている。

4-6:卒業生の転職の相談など必要に応じて対応している。また、卒業生を対象とした講座を実施した。

4-7:進路説明会やガイダンス等に積極的に参加、キャリア教育や専門学校の説明が行われている。

4-8:求人開拓を就職担当と協力のもと行っている。

4-9:課外活動としてボランティアやコンテストの紹介を行っており、学科の課外活動においては後援会からの補助を受けることができる。

4-10:雇用保険の教育訓練給付金対象講座の対象となっている。

今後の改善方策

- ・学生の経済的支援について、公的なものや学園のサポートプランはあるが、留学生に対して、さらなる充実が求められる。
- ・意味のある地域貢献活動を行えるよう分掌担当者を置く。
また新しいカリキュラム「コミュニティサービス」を活用する。

(5) 教育環境

評価欄

5-1	講義室、実習室の管理は適切に行われているか	3.6
5-2	実習室及び講義室は学生の自習室として開放しているか。	3.6
5-3	教育用機器備品は整備されており活用されているか	3.6

5-4	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.6
5-5	防災に対する体制は整備されているか	3.5
5-6	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3.4
学校自己評価 平均		3.6
<u>成果と課題</u> 5-1:各教室、各実習室に管理担当者が割り振られており、適切に管理を行っている。 5-2:空き時間を活用して自由に利用できる環境を整えている。 5-3:教育用機器、備品は整備されており、授業や実技演習において有効に活用されている。 5-4:施設については、定期的に保守点検等を実施し、環境を整備している。設備については、教育に必要な備品が充実している。 5-5:備蓄品の確認や備蓄倉庫の強化、避難訓練などを行う態勢は整備されており、適切に行われている。全校一斉の避難訓練は行われていない。 5-6:学外での実習施設、海外研修は行われていない。インターンシップ参加に対して事前の指導を行っている。		
<u>今後の改善方策</u> ・インターンシップを実施している学科については引き続き事前指導を行うが、その目的やビジネスマナー等の指導強化を行う。		

(6) 学生の募集と受け入れ

評価欄

6-1	入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	4.0
6-2	募集要項の内容は適切か	4.0
6-3	学生募集活動は、適正に行われているか	3.6
6-4	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.5
6-5	学納金は妥当なものとなっているか	3.8
学校自己評価 平均		3.8
<u>成果と課題</u> 6-1:各科の特徴、目指す職業、取得目標資格、カリキュラム、実習内容など、必要な情報は毎年更新され学校案内パンフレット等に掲載している。 6-2:入試日程や選考区分に加え、学費の内訳および奨学金に関する情報も掲載されている。 6-3:希望者への資料送付や進学相談会への参加、ならびに本校独自の学校説明会やオープンキャンパスの実施については適切な範囲で運用し、志願者が必要とする情報を十分に提示、説明している。電話・メール・LINE等による相談や個別来校での相談にも随時対応している。 6-4:就職実績については、学校案内およびホームページに加え、就職実績冊子を別冊として配布している。また、難関資格の取得実績等は随時ホームページで紹介しているが、資格取得に関する公開内容や情報発信の方法については改善の余地がある。 6-5:毎年、預かり金額の見直しが行われる等、妥当性のある金額を保つための努力が行われている。		

今後の改善方策

- ・学生募集活動は適切に行われ、妥当であるとの判断している。

(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守

評価欄

7-1	教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか	3.3
7-2	組織間、各部署間の連携は適切に図られているか	3.2
7-3	非常時の危機対策管理に対する周知は徹底されているか	3.2
7-4	消防計画、学校安全計画は適切に整備し、防災訓練等は実施されているか	3.4
7-5	目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.8
7-6	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3.7
7-7	運営組織や意思決定機能は、規則等で明確化されているか、有効に機能しているか	3.5
7-8	人事、給与に関する制度は整備されているか	3.2
7-9	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.6
7-10	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4.0
7-11	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.4
7-12	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3.0
7-13	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.5
7-14	財務について会計監査が適正に行われているか	4.0
7-15	財務情報公開の体制整備はできているか	4.0
7-16	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.9
7-17	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.7
7-18	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.7
7-19	自己評価結果を公開しているか	4.0
7-20	ハラスメントに対する防止対応策が整備されているか	4.0
学校自己評価 平均		3.6

成果と課題

- 7-1: 学校法人の人事評価制度で定期的に評価されている。しかし分掌等の業務評価は不足しているように感じる。
- 7-2: 会議や共有資料を通じて基本的な情報連携が行われている。各所属レベルでの連携はその濃淡にばらつきがある。
- 7-3: 法人本部からの安否確認および学校危機管理マニュアルの作成が行われ、非常時の危機対策管理の周知は進んでいる。非常時の連絡手段が限定的である。
- 7-4: クラスごとに防災訓練を実施している。AEDの利用や緊急救命、避難器具の利用についての講習は行われていない。学校全体での訓練実施はない。
- 7-5: 理事長や所属長からの方針が示されている。
- 7-6: 運営方針に従って事業計画が策定されている。
- 7-7: 組織図や分掌が整備され、基本的な責任範囲が定められている。
- 7-8: 規程に基づいているかと思われるが全てにおいて整備されているとは思えない。
- 7-9: Web フローを中心に、稟議決裁等の意思決定システムは適切に運用されている。

7-10: ホームページ上で必要な情報の公開を行っている。
7-11: Teams などの情報システムツールを組織全体が使うという意識が見られ、積極的な活用に繋がっている。一方で、職員によりスキルの差が大きい。
7-12: 少子化の加速を迎えるにあたり、財務基盤は安定しているとは言えない。また、学生数の変動が財務に直結するため、安定確保のための対策が必要。
7-13: 適切なコストセーブや投資計画がなされているが、財政状況から更なる精査が必要である。
7-14: 適切に行われている。
7-15: 法人ホームページにて公開をされている。
7-16: 法令遵守に努め、適切な運営がされている。
7-17: パスワード管理やアクセス権限設定が実施されている。
7-18: 改善に向けているものもあるが、引き続き改善に向けた取り組みが必要なものもある。
7-19: ホームページにて公開をしている。
7-20: ハラスメント委員が選定されており、ハラスメントボックスが設置されている。
<u>今後の改善方策</u>
<ul style="list-style-type: none"> ・災害、緊急時等に係る取り組みを非常勤講師への認知も含めて検討をしていく。 ・次年度に向けて必要経費等の精査を行っていく。

(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流

評価欄

8-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.5
8-2	留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	3.7
8-3	留学生の受入れに対して、学内での適切な体制が整備されているか	3.4
8-4	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3.0
8-5	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.4
学校自己評価 平均		3.4

成果と課題

- 8-1: 施設の貸し出しや保育施設に対し本校で防災訓練を実施。また、児童養護施設へバースデーケーキを贈呈。また学生のボランティア参加など、地域貢献活動が定着しつつある。
- 8-2: 在留資格に関する手続きや受け入れについて適切にサポートされている。
- 8-3: 留学生の受け入れ態勢はあるが、緊急時の体制に課題がある。
- 8-4: 高校教員向け講座、卒業生向け講座の実施は行った。地域に対する公開講座、教育訓練の受託は行っていない。
- 8-5: 学科を中心としたボランティアが多く、公募のものはあまり参加率が良くない。

今後の改善方策

- ・留学生緊急時のサポート体制等について検討を進める。
- ・教育訓練給付制度講座指定認定校であるため、引き続き受け入れのための広報活動を行う。
- ・地域に対する公開講座の一つとして、卒業生に向けた講座を継続的に検討、実施していく。

以上